

現行土地改良長期計画の実施状況について

農村振興局

平成23年 9月 1日

農林水産省

目 次

資料 1 - 1	主なアウトカム指標の達成状況とその効果について	1
資料 1 - 2	基盤整備実施地区における多様な農業経営育成の事例	9
資料 1 - 3	地下かんがいの導入状況について	13
資料 1 - 4	農業農村整備事業における小水力発電について	16

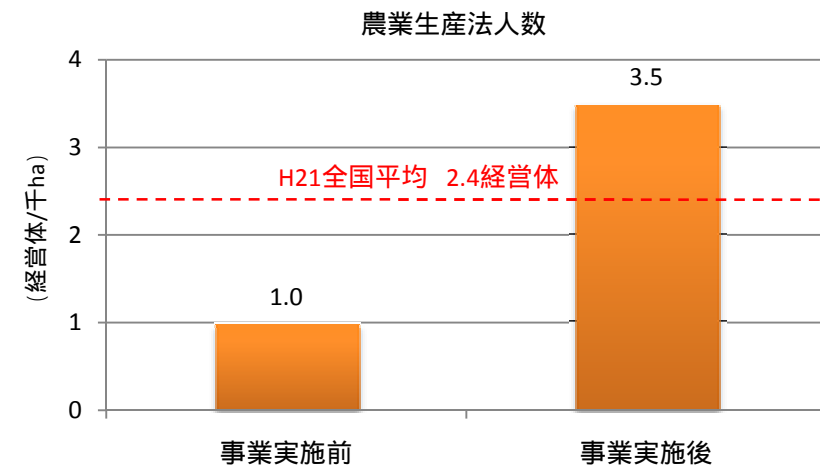
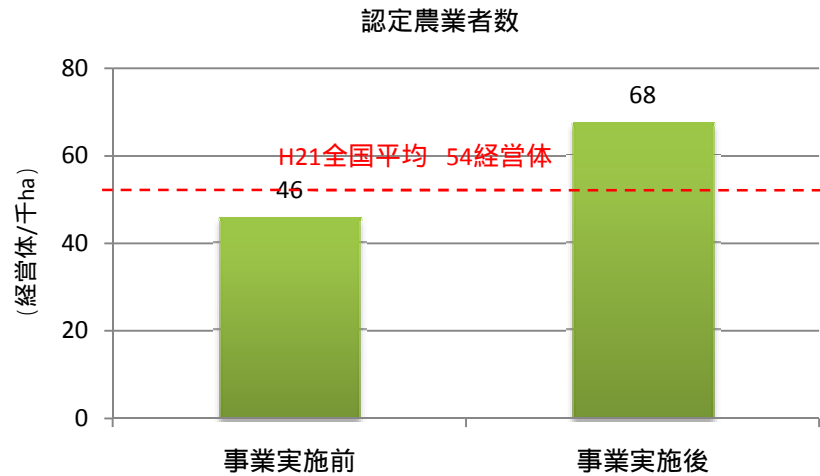
主なアウトカム指標の達成状況と その効果について

政策目標	指標及び事業量	目標値	H20～H22 実績値	
			備考	
効率的かつ安定的な経営体の育成と質の高い農地利用集積	農業生産基盤の整備地区において意欲と能力のある経営体への農地の利用集積率	約7割以上	67%	H22年度
	農業生産基盤の整備地区において、新たに農業生産法人等を設立	約130法人	146法人設立	H22年度
農業用排水施設のストックマネジメントによる安定的な用水供給機能等の確保	機能診断済みの基幹的農業用排水施設の割合（再建設費ベース）	約2割(H19) 約6割(H24)	39%	H22年度
農用地の確保と有効利用による食料供給力の強化	基盤整備の実施により対象農地における耕地利用率	105%以上	103%	H22年度
	湛水被害等が発生するおそれのある農用地の延べ面積	約91万ha(H19) 約67万ha(H24)	81万ha	H22年度
田園環境の再生・創造と共生・循環を活かした個性豊かで活力ある農村づくり	個性豊かで活力ある農村づくりに向け、田園自然環境の創造に着手した地域	約1,400地域(H19) 約1,700地域(H24)	1,747地域	H22年度
	このうち生態系のネットワークの保全の推進	約670地域(H19) 約830地域(H24)	925地域	H22年度
	農業集落排水汚泥のリサイクル率	61%(H19) 70%(H24)	64.0%	H21年度
	農業集落排水処理人口	約350万人(H19) 約400万人(H24)	360万人	H21年度

1. 農地整備 (基盤整備による担い手への農地利用集積)

基盤整備実施地区では、事業実施後に認定農業者数及び農業生産法人数が全国平均より高い水準に増加。区画整備された水田面積が多い地域ほど、3ha以上の経営体が経営する水田面積は増加。水田整備の進展と共に、稲作労働時間は低減。

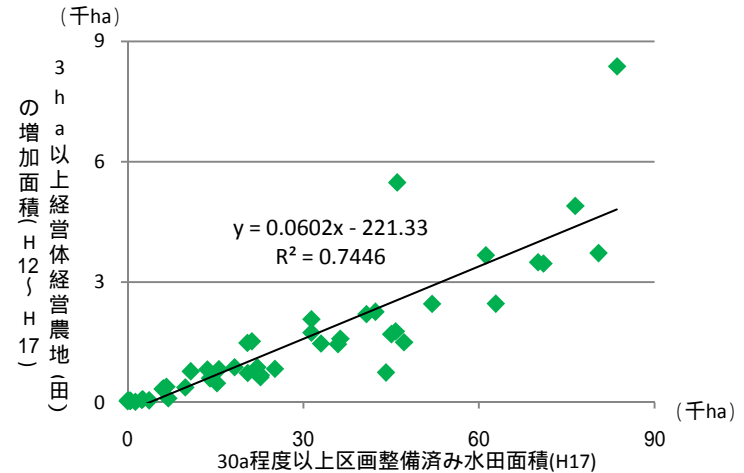
基盤整備実施地区における認定農業者数と農業生産法人数の変化



注1: 基盤整備実施地区における認定農業者数及び農業生産法人数は、H20～H22に基盤整備を完了した地区の実績。

注2: 全国平均は、全国の認定農業者数及び農業生産法人数(農林水産省経営局調べ)と耕地面積(耕地及び作物面積統計)より算出。

区画整備済み水田面積と3ha以上経営体の経営農地面積(田)の増加の関係(都府県別)

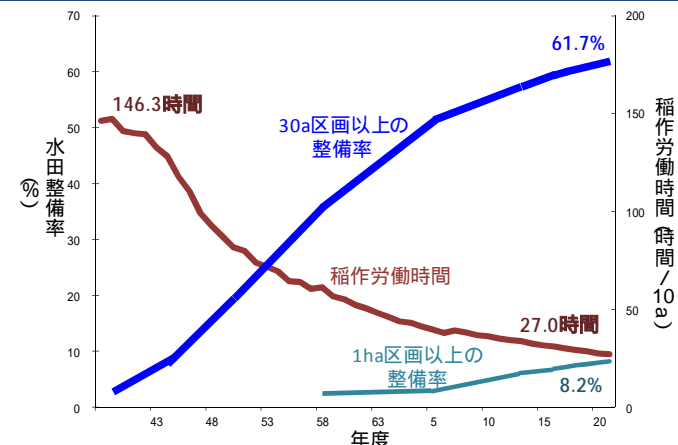


資料: 農村振興局「農業基盤整備基礎調査」、2005年農林業センサス、2000年世界農林業センサス

注1: 30a程度以上区画整備済み水田面積は、H17の実績。

注2: 3ha以上経営体経営農地(田)の増加面積は、H12からH17までの増加面積。

水田整備率と稲作労働時間の推移



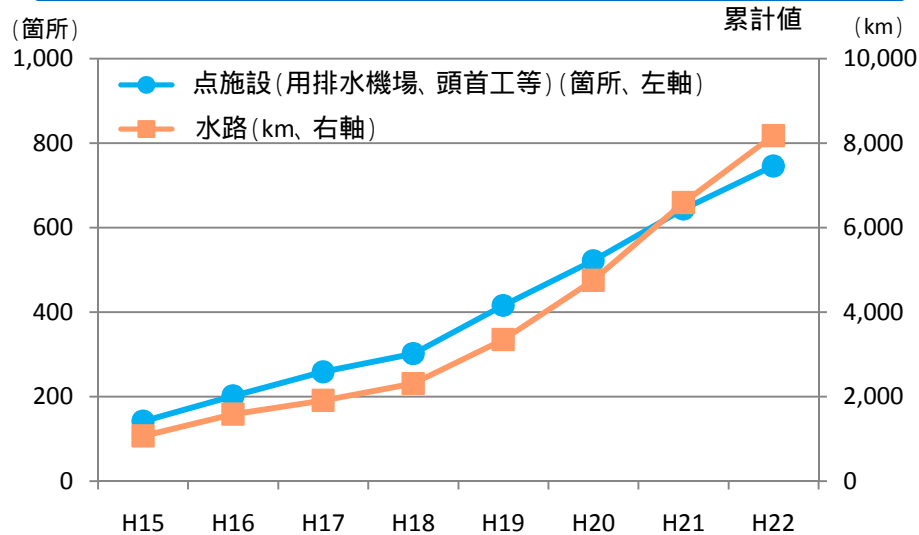
資料: 農林水産省農村振興局「農業基盤整備基礎調査」、米及び麦類の生産費

2. 農業水利施設の保全(機能診断実施に伴う効率的な整備)

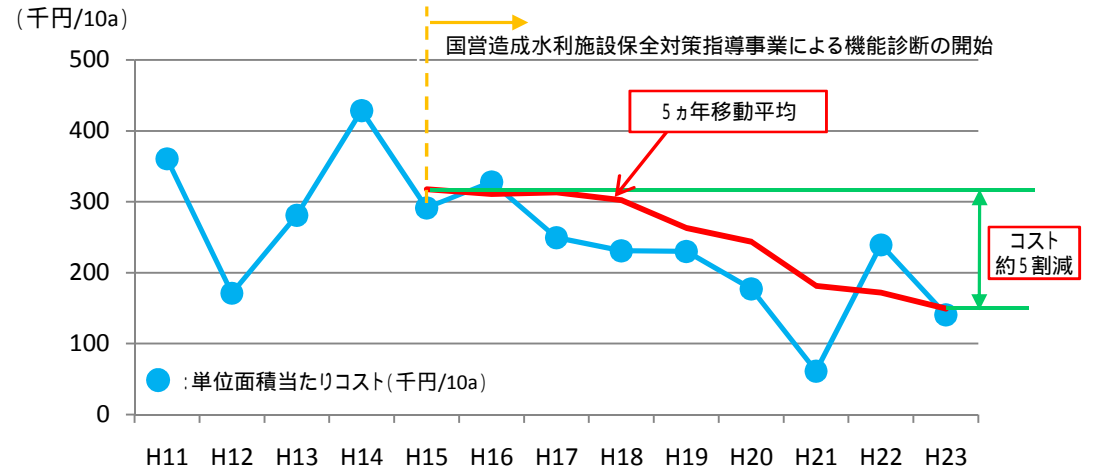
国営造成施設の機能診断は着実に推進。

機能診断等の取り組みを通じて、必要な施設に重点化した整備を行うことにより、国営かんがい排水事業(更新地区)の単位面積当たりコストは減少傾向。

機能診断実施状況【国営施設のみ】

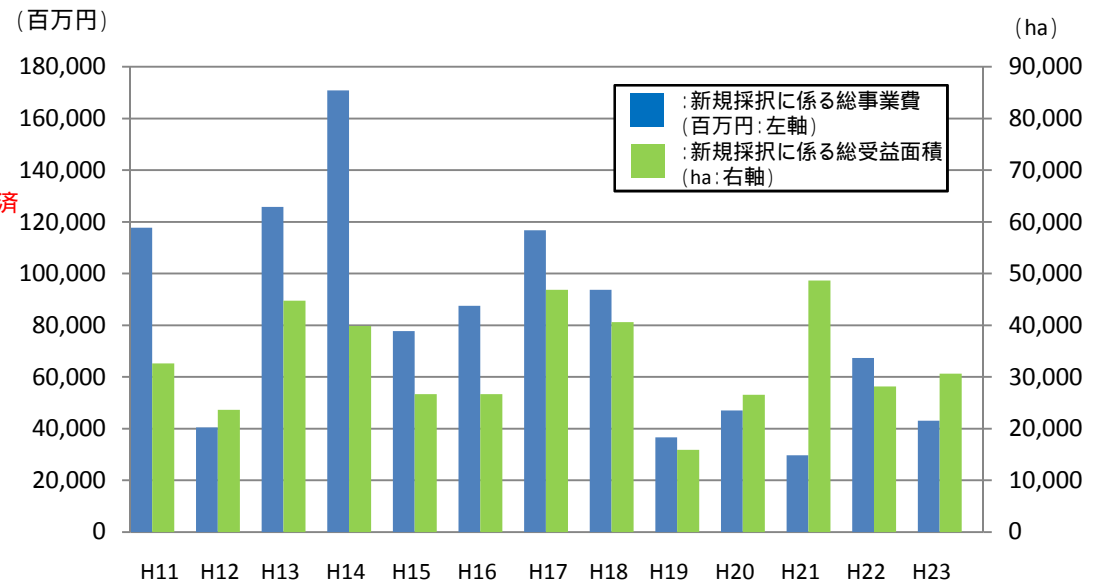
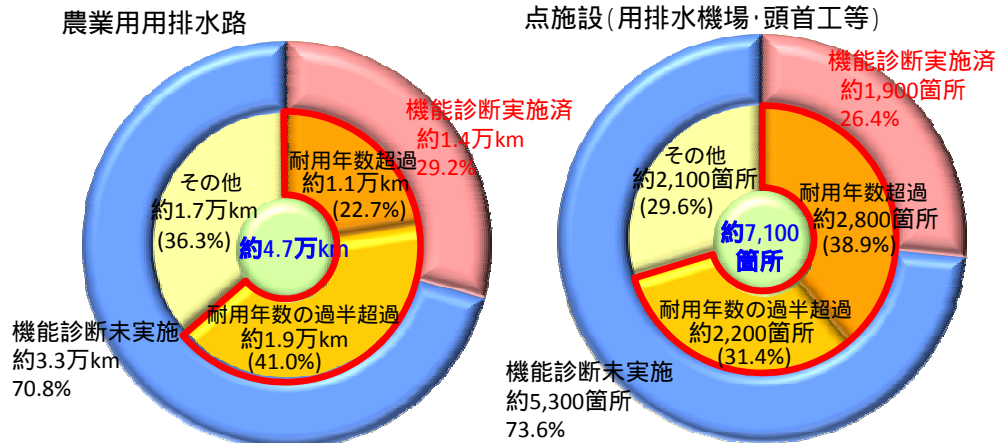


国営かんがい排水事業の単位面積当たりコストの推移【事業着手地区、更新地区のみ】



機能診断実施状況【基幹的水利施設(受益面積100ha以上)】

H22まで累計値

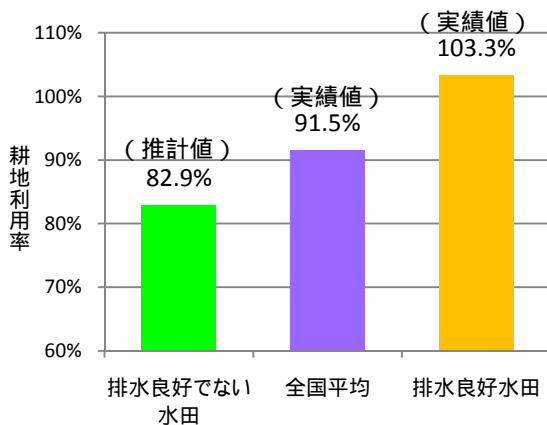


3. 農地整備 (水田の汎用化による耕地利用率の向上)

平成15年度から平成22年度までに、区画整理や暗きょ排水等の整備を約10.5万haで実施。基盤整備を実施した地区における耕地利用率は、排水良好でない水田より約20%高い水準。
 基盤整備実施地区における事業実施前後の作付面積を推計すると、基盤整備は約21千haの作付面積の増大に寄与。このうち、麦類及び豆類は、それぞれ約6千haの作付面積を新たに創出。

基盤整備による耕地利用率の向上と作付面積の増加(推計)

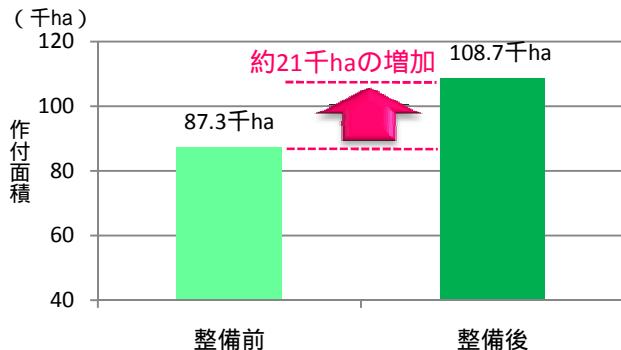
	整備面積 (ha)
H15	14,813
H16	18,137
H17	17,157
H18	14,437
H19	13,446
H20	8,993
H21	9,949
H22	8,252
合計	105,184



注：排水良好でない水田の耕地利用率は、H21の全国の排水良好でない水田の面積から算出した推計値。

排水良好水田の耕地利用率は、基盤整備実施地区におけるH20～H22年度の実績値。全国平均の耕地利用率は、「耕地及び作付面積統計」における全国の田のH21実績値。

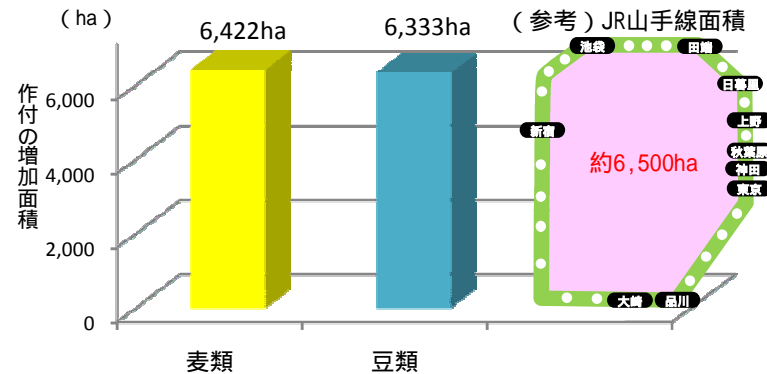
水田の汎用化に伴う作付面積の変化



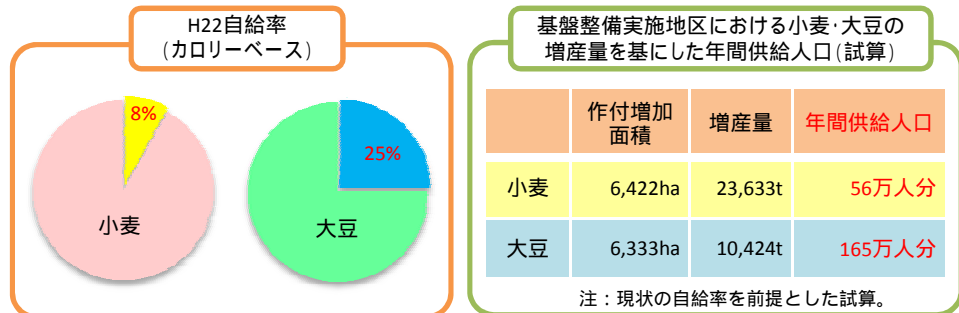
注：整備前の耕地利用率を排水良好でない水田の耕地利用率、整備後の耕地利用率を排水良好水田の耕地利用率として、H15～H22年度に基盤整備を実施した約10.5万haの農地を対象に作付面積を推計。

基盤整備による麦類・豆類の作付面積の増加(試算)

H15～H22年度の8年間でJR山手線内側の面積(約6,500ha)に相当する麦類及び豆類の作付けを新たに創出。



注：整備前の麦類・豆類の作付割合を排水良好でない水田における作付割合、整備後の麦類・豆類の作付割合を基盤整備実施地区のH20～H22年度作付割合とし、事業実施前後の麦類・豆類の作付面積を試算。



注1：小麦、大豆の自給率における純食料は、「国内消費仕向量 - (飼料用 + 種子用 + 加工用 + 減耗量)」に歩留まりを乗じたもの。

注2：麦類、豆類の単収を、「作物統計」における小麦、大豆の単収のH18～H22の5カ年平均、歩留まり及び年間の1人当たり供給量を、H22食料需給表における小麦、大豆の値として試算。

集中豪雨の発生回数が増加傾向にある中、農地防災事業などの進展により、自然災害による農地・農業用施設の被害額は減少傾向。
排水施設等の整備により、農用地の湛水被害の防止に加え、宅地等の浸水被害も防止。

【対策例】排水施設の整備

湛水被害が頻発している地域において、排水施設を整備することにより、農用地の被害を防止するとともに、宅地等の浸水も防止。



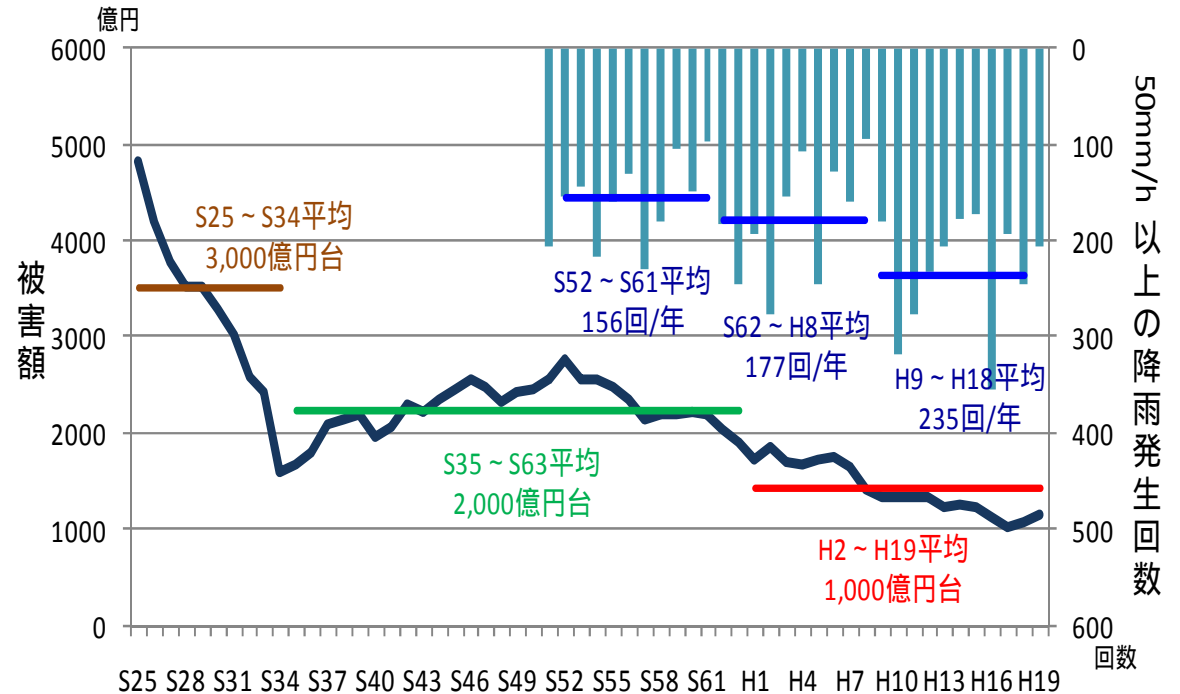
台風や豪雨による農地の湛水状況



排水路の整備

排水機場の整備

「農地・農業用施設被害額の推移」及び「50mm/h以上の降雨発生回数」



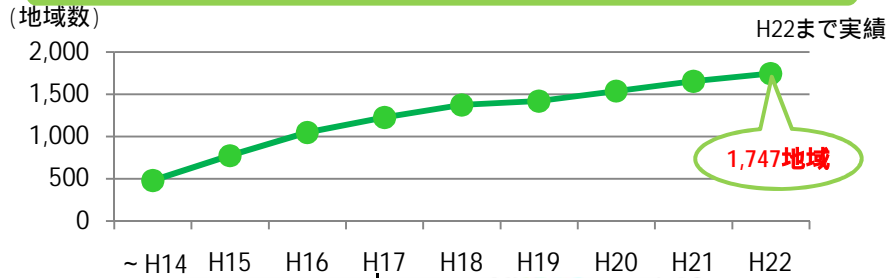
排水施設の整備による効果
～ 国営総合農地防災事業「佐賀中部地区」の事例～

整備前	整備後
・H2.7月豪雨(6日間雨量 461mm)	・H9.7月豪雨(6日間雨量 441mm)
447haが湛水(地域(899ha)の約50%)	湛水なし

5. 田園環境の創造

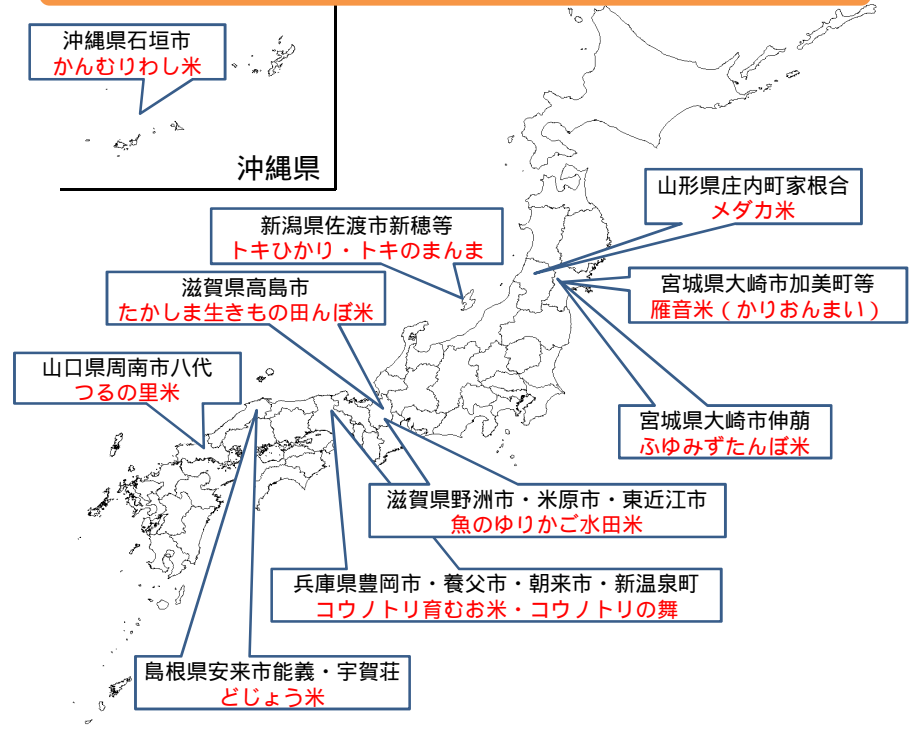
田園自然環境の創造に着手した地域数は、平成22年度末現在で1,747地域。
 豊かな田園自然環境において生息する生物をシンボルとした「生きものマーク米」が、各地で取り組まれており、事業における環境配慮が、こうした生きものマーク米による農業振興に貢献。

田園自然環境の創造に着手した地域(累計値)



地域の考え方
 旧市区町村を地域の単位として、田園自然環境の創造に着手した施設を含んでいる地域。

生きものマーク米の主な取り組み



トキひかり・トキのまんま (新潟県佐渡市新穂等)

新潟県佐渡市では、トキの野生復帰に向けた取組の一環として水田魚道、江(承水路)、ピオトープ等を整備し、トキの餌生物をはくむ空間として管理。



水田魚道
水路と水田の連続性を確保



江(承水路)
餌生物の生息場・繁殖場を確保



冬期湛水
冬期間の餌生物の生息環境の整備

魚のゆりかご水田米 (滋賀県野洲市・米原市・東近江市)

滋賀県では平成13年度から「魚のゆりかご水田プロジェクト」を推進。農業の生産性を維持しながら生きものと人が共生できる農業・農村の復活を目指している。



魚が遡上出来るよう排水路を改修



環境教育



水田から琵琶湖への濁水の抑制

コウノトリ育むお米・コウノトリの舞 (兵庫県豊岡市・養父市・朝来市・新温泉町)

兵庫県では平成15年に「コウノトリ野生復帰推進計画」を策定し「人と自然が共生するまちづくり」を推進。豊岡市などにおいて水田魚道の設置や「コウノトリ育む農法」に取り組む。

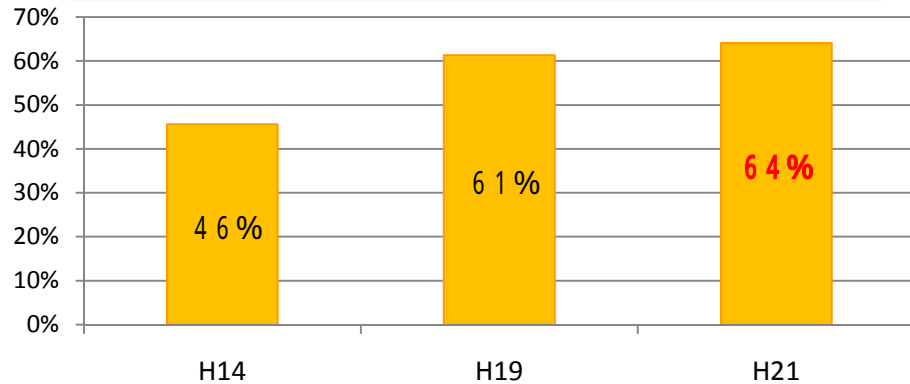


農業者とコウノトリ

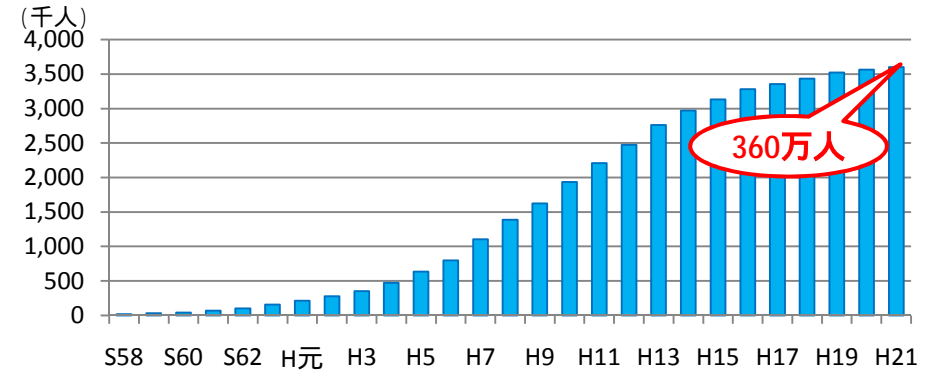
6. 農業集落排水の整備

農業集落排水施設から発生する汚泥のリサイクル率は64%に向上。農地還元の割合が全体の45%。
 農業集落排水施設の処理水約3.5億 m^3 のうち、約8割の約2.7億 m^3 が農業用水等として再利用。
 農業集落排水施設の整備により、農業集落排水処理人口は360万人、整備率は68%に増加。

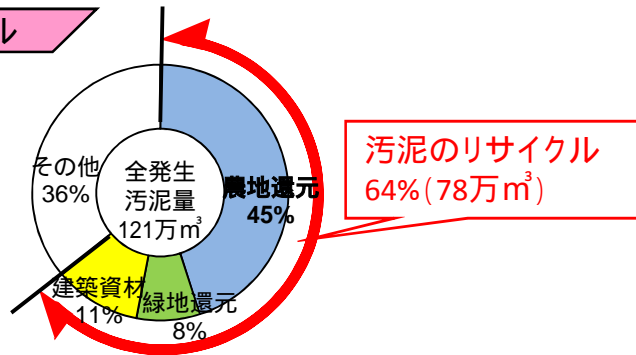
農業集落排水汚泥のリサイクル率の推移



農業集落排水処理人口の推移

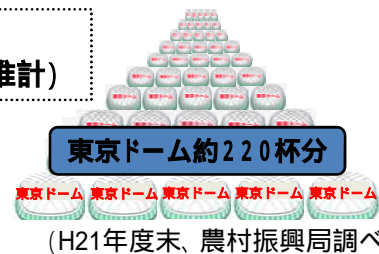
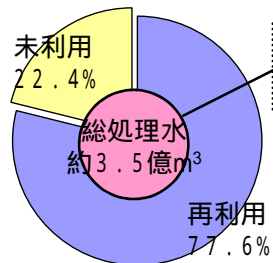


汚泥のリサイクル



処理水の再利用

処理水が農業用水等として再利用されている割合



農業集落排水整備率 (処理済み人口 / 整備対象人口) [H22.3月時点]

